

振り返って
そして前を見て

15

経験を通して

松尾早紀 (歯科衛生士)



きっかけは母

「早紀ちゃん、歯磨き上手やなあ」——子どものころ、母の勤務する歯科医院でかけられ、嬉しかった言葉です。私は、歯科衛生士の母の影響でこの仕事に興味をもつようになりました。診療室で働く母は、いつも患者さんと楽しそうに会話をしながらテキパキと仕事をこなし、とても格好よく見えたのをいまでも覚えています。

ですから、進路を決めるときには、国家資格であり、人の役に立つ仕事で、かつ私の“人と話すことが好き”という性格に合った仕事……と考えるうちに、自然と「歯科衛生士」が選択肢として浮かびました。「歯科衛生士になりたい!」とはじめて母に打ち明けたときは少々照れくさかったですが、母の応援のもと、歯科衛生士専門学校に入学しました。

卒業後は、実家の近くにある当院に就職し、アシスタントワークや患者さんへの接し方、マナーなどを猛勉強する日々を送りました。また、入局直後からは、月2回、予防を中心とした院内勉強会が始まりました。最初のテーマとなったカリ

オロジーの勉強会では、学生時代に習得した知識だけでは十分ではないことを痛感し、教科書には載っていない新しい情報を学び続けることの大切さを学びました。なかには理解が難しいところもありましたが、院長は繰り返し優しく教え、導いてくれました。そんな院長に心から感謝しています。

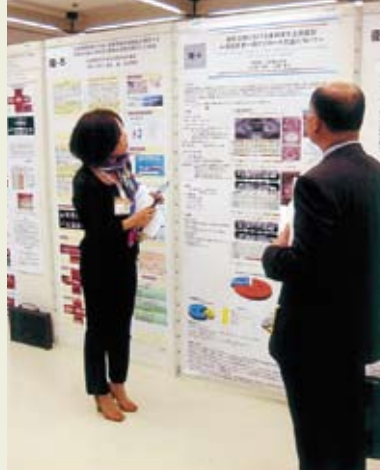
予防型診療システムへの第一歩

入局して3年目、先輩の退職によって歯科衛生士のなかでは一番上の立場となり、これまで先輩を追いかけていけばよかったのが、先頭に立っているいろいろなことに挑戦していかなければならない立場となりました。

そのころ当院は、就職当時から継続して予防を行ってはいたものの、担当制が導入されておらず予防のシステムが確立されてなかったことから、歯周病の再発やカリエスの発生などが頻発し満足いく結果が得られていませんでした。しかし、院長が熊谷 崇先生(山形県酒田市・日吉歯科診療所院長)が主宰する「オーラルフィジシャンセミナー」に参加したことをきっかけに、規格的な検査に基づく診断、予防プログラム立案を経て、継続的に患者さんをメンテナンスするという「メディカルトリートメントモデル」にのっとった診療がスタートしました。唾液検査の導入や規格性をもった資料づくりなど、新しく取り組むことばかりでしたが、もがきながらもスタッフ全員で取り組み、いまでは患者さんの口腔内をより健康に



●松尾早紀 / まつおさき
2002年 徳島歯科学院専門学校 卒業
同 年～ 川原 歯科医院 (徳島県馬市) 勤務
2007年 日本歯周病学会認定歯科衛生士資格取得
医院HP : <http://kawahara-dc.jp/>



左：日本歯周病学会でのポスター発表の様子

右：いまも現役で歯科衛生士として働いている母と



保つ診療所に近づけている気がします。

現在、私が担当する患者さんは約 600 人、1 日に担当する方は多いときで 16 人ほどです。当院がオーラルフィジシャン（口腔内科医）を標榜する診療所となったことで、歯科衛生士としての仕事のチャンスが広がり、とてもやりがいを感じています。

大切なのは、「経験から学ぶこと」

私は、学会やセミナーにはできるだけ参加するように心がけています。なぜなら、学会やセミナーに参加することで、時代が変わっても変わらない基本的な考え方と新しい考え方の両方を学べることはもちろん、第一線で活躍している講師の先生方の笑顔や肉声に勇気づけられるからです。講師の先生方は現状に満足せずに、自ら進む道を切り開いた方ばかりであり、仕事に対する貪欲さにはいつも圧倒されます。

また、学会での発表や講演なども大きな経験の 1 つです。人前で話すにあたっては、発表内容に合わせたプレゼンテーションの作成やそのための情報収集、予行演習などに、膨大な準備期間を要します。しかし、終わった後は達成感でいっぱいになり、なんともいえない喜びを感じます。そして、「またチャレンジしたい」という思いに変わ

るのです。

普段の業務のなかで心がけていることとしては、「患者さんの背景を踏まえたカウンセリング」を行うことがあげられます。口腔衛生指導などでは、術者側の想いが患者さんにうまく伝わると、短期間でよい結果が生まれます。ですから、患者さんには、現状をわかりやすく説明し、シンプルで簡単なセルフケアの方法を習慣化していただくようお伝えしています。また、患者さんの生活背景の問題を敏感に感じ取るために、患者さんの話をよく聞くように心がけています。

歯科衛生士という職業は、開業歯科医院で働くのが一般的で、積極的に外に飛び出さないかぎり、1 つの世界に閉じこもってしまいがちです。しかし私は、歯科衛生士を一生の仕事と考えており、だからこそいろいろな世界を見て見聞を広め、得た知識を臨床に還元することが大切なのではないかと思っています。

経験を重ねるごとに、歯科衛生士の仕事に魅力を感じることもできるのも、院長をはじめとするスタッフや支えてくれる家族のおかげです。これからも当院の仲間とともに多くの「経験」を積み、より多くの患者さんに健康の大切さを伝え、日々邁進しつづけたいと思います。